

投光器

国労東海貨物協議会
2018年1月1日
発行責任者 鈴木和巳

謹賀新年



組合員の皆様、明けましておめでとうございます。

貨物会社は昨年度の決算において「鉄道事業部門の黒字化」を達成しましたが、社員に対する還元は微々たるもので、社員の誰もが期待した期末手当においても低額回答を続け、貨物社員の生活改善には程遠い状況が続いています。

今後においても黒字化の継続を目指し、株式上場に向けた基盤作りに更なるコスト削減と労働者犠牲の経営が続くことが予想されます。社員の誰もが黒字化を歓迎こそそれ否定するものではありませんが、貨物会社発足時から続く「構造矛盾」には手を付けず、経営責任の犠牲を社員が受ける構図は何ら変わっていません。この状況に嫌気がさし、他職を求め転職する青年や高齢者の退職も複数出ています。又、職場を見れば、乗務員における待機と休養の取扱いや要員不足による年休の未消化、新規採用者の不足による技術継承の問題等、多くの不満が相次いでいます。

国労東海貨物協議会役員一同、様々な問題点の解決と、労働者が明るく安全に働く職場作りを目指し、微力ではありますが本部・全貨協に結集し、組織強化・拡大、18春闘勝利、労働条件改善・労働環境改善等に向け努力していく決意を述べ新年の挨拶に代えたいと思います。

本年も宜しくお願ひ致します。

国労東海貨物協議会 議長 鈴木和巳



会計監査

西川 哲
井上 守
中村 剛
多賀 明

幹事 事務長

池田 和義
堀江 秀一
加藤 広明
大金 健治

副議長

小川 敏広
鈴木 和巳

東海貨物協議会